

日本全国に広がるPFAS汚染～PFASが子どもに与える影響～ ②

脱プラスチック

昨年 11 月 15 日にアステック神戸で開かれた「明石神戸の PFAS 汚染と健康を考える会」主催の講演会の報告の続編です。

この日、大阪・西脇・明石・岡山吉備中央町からの報告がありました。私の印象に残ったのは、西脇市からの報告でした。以前、西脇市での血液検査結果について報告していますが、現地の詳しい報告を聞くことができました。以下、資料から抜粋して箇条書きでまとめました。PFHxSについては、西脇市のホームページも掲載しています。

- 西脇市は、人口3万5千人を切る小さな町。かつて、水が豊富ということで繊維業が起こり、その収入で町が潤った。繊維の撥水加工に使われた PFHxS(ペルフルオロヘキサンスルホン酸)が、長年にわたり、地下に蓄積された疑いが濃くなった。
- 2021 年、上戸田浄水場で、PFAS が 140 ナノグラム検出されていたことを、新聞報道で知った。
- 西脇市は、2024 年の市議会で建設水道部長が謝罪するまで、この事実を隠していた。
- 140 ナノグラム検出されていた浄水場の配水エリアには、約 5000 世帯 1 万人が生活している。しかも、浄水場の隣には、市立の給食センターがあり、この水を使って調理したおかずが西脇市の全ての小中学校に提供されてきた。2021 年からの 3 年間は、もちろんのこと、それ以前の数十年に渡り、PFAS の高濃度水道水は、市民や子どもたちに提供されてきた。
- 5 月 31 日の自主的な血液検査の結果、上戸田浄水場の水道水を長期間飲んできた住民の多くが 20 ナノグラム(アメリカの基準)以上であり、最高、44 ナノグラムの PFAS が体内に蓄積している事実が明らかになった。
- 西脇市の議員が、兵庫県の統計資料をもとに、西脇市の体重 2500 グラム以下の出産乳児の割合が、周りの市町村に比べて異常に高い時期があるということがわかった。
- ジャーナリストの「幸田泉さんが、中高生の一部だけでも血液検査をすべき」という意見は、重要だ。
- 10 月 26 日の市長選挙で、市長候補の大嶋としひで氏は、市民の血液検査を公費で援助すると約束し、選挙の争点になったが、当選はできなかった。



PFHxSはPFOSやPFOAの代替品としても利用されていました

以上、お話の一部ですが、西脇市の現状がわかり、市民が立ち上がって、行政に声をあげていることは、とても、大切だと思いました。

参考資料（西脇市 HP より）

有機フッ素化合物(PFHxS)

ペルフルオロヘキサンスルホン酸(PFHxS)は、PFOS 及び PFOA と同じ有機フッ素化合物であり、環境中で分解されにくく、人体への蓄積性も懸念されています。

PFHxS は、令和 6 年に第一種特定化学物質に指定され、製造・輸入が原則禁止となりました。

水道水質においても、要検討項目(毒性評価が定まらない、水道水中の存在量が不明等、情報・知見を収集中)に設定されていますが、目標値は設けられていません。

西脇市においても、検出状況を確認するため市内 4 か所の浄水場系統より配水されている給水栓で検査を実施しました。